

<2021 年度研究助成 選考委員長からの講評>

今回も非常に多くの、しかも優れた応募をいただき、御礼申し上げます。ただ、コロナ禍などによる財団の財政状況等を踏まえ、選考に当たり助成額を抑えめにせざるを得ませんでした。研究目的、研究手法、得られる成果の期待度などが高く評価されたもの全てに助成できなかったことは、誠に残念だと考えています。最終的に選考された研究に比較しても、研究レベルとしては同等のものがかかり、含まれておりました。

ただ、本助成の開始時の「原点」である若手の育成に最大限配慮させていただき、一般助成の三倍の件数を選考させていただきました。これまでも、若手助成を受けられた方々の着実な研究の発展は認識していたのですが、「学問研究の発展」という視点をさらに重視し、「せめて 3 件の若手助成を」と財団に御願ひした次第です。

コロナ禍による社会の大きな変動が、「安心安全の問題」に与えるインパクトは深く重いものだと思います。応募された皆様の積極的な取り組みを期待いたします。また、景気の回復などにより、助成枠が拡がることを願っております。

選考委員長 前田雅英